

【全校研究テーマ】

授業力向上 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～（2年め）
—「自立活動」の視点に重点を置いた授業研究—

1.概要

令和3年の中央教育審議会の答申「令和の日本型学校教育」において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、各学校段階においてめざす学びの姿を実現することがまとめられている。本校では昨年度から「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的で対話的で深い学び」を充実させるべく、学校全体で授業改善に取り組んでいる。また、昨年度は支援教育に関する専門性の向上につなげるため、教員の学び方である研修方法を見直し、教員自身が主体的・継続的に学べるように少人数グループで授業の実践を交流する形式で研修を進めてきた。

授業力研究2年めとなる今年度は、自立活動の視点に重点を置いて、授業の目標を達成するための手立てについて考える。各学部で自立活動の時間や、教科授業において授業研究を行う。児童生徒一人ひとりの多様な実態に合わせて学びを最大限に引き出すため、自立活動の観点から実態把握し、支援内容・方法の充実に努めることで「わかった・できた・もっとやりたい」につながる「個別最適な授業」をめざした。（図1 授業研究の流れ）

図1 授業研究の流れ

達成したい授業・教科の目標
(資質・能力の育成)

自立活動の観点から実態把握

支援内容・方法の工夫

授業実践(個別最適な授業)

2.方法

小・中・高の各学部で年間4回学部研究会を行い、4～8名程度の少人数グループに分かれて授業検討を行った。

第1回の学部研究会では、互いの授業を見合うペアを決め、前期の授業目標を達成するために自立活動(6区分27項目)のどの項目にグループの児童生徒の課題があるのか分析し、個々の困難に合わせた支援内容や方法について意見を出し合った。第2回の学部研究会では、授業主导者、見学者、意見を聞いた人による意見交流を行い、授業で行った支援内容や児童生徒の様子からその効果について話し合い、ワークシートに記入した。(図2 参考例) 第3回の学部研究会では、後期の授業の意見交流を行い、第4回で2月の研究発表会に向けてグループの支援内容の良かったところや今後の課題を振り返り、結果を考察してまとめを行った。

授業・教科の目標	自立活動の課題	支援内容・方法	結果
体育 ボールのパス練習	活動や状況の把握が苦手で見通しが持ちにくい。	全体への説明に加え、個別に「誰と」「何回する」を個別に伝える。 ※スケジュールの提示	模範を見せることで活動内容を理解し、スケジュールを提示することで安心して活動に参加することができた。



図2 参考例

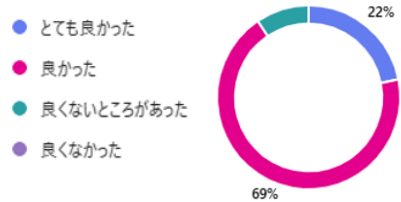
研究発表会の様子(モニター発表)

3.結果

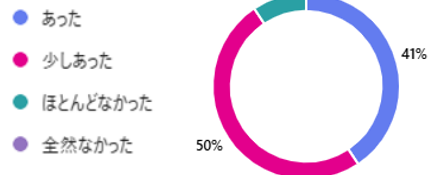
本年度の研究テーマが児童生徒の実態に合わせた授業検討であったため、全校の教員にとって比較的経験年数に関わりなく研究内容をイメージしやすく共有できた。小学部では、児童の課題を生活場面に関わる複数のテーマから設定し、授業での取り組みや支援の方法を考えることができた。中学部では、担当教科を中心としたグルーピングにより授業の具体的なアイデアについて意見を交流できた。高等部では、研究内容の共有のために授業で導入しているロイロノートを活用し、教員がICT機器の扱いに慣れて効果的に研究を進めることができた。どの学部でも、支援教育の根幹の一つである自立活動の観点から個々の指導支援を考えることで、改めて支援教育の原点に立ち、個別最適な授業の実践について検討できた。

研究発表後のアンケート結果では①研究テーマに基づいたグループごとの授業検討について良かったという意見が91%を占めた。②自身の授業への視点を深める上で少しでも良い効果があったとする意見も91%を占めた。③今年度行った学部単位でのグルーピングについてはちょうど良かったという意見が75%にのぼった。昨年度行った学年ごとのグルーピングが19%だったのに比べ、校内の満足度が上がった結果となった。その他の自由記述として、学部ごとに特色があり興味深かったとする意見や実践を共有できて参考になったという意見があった。課題については次年度引き継いでいきたい。来年度は、教科会を活用し全校的にグループを編成し、担当教科を中心としながら他学部から学び合い研究を進める。

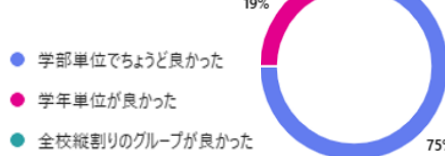
1、今年度の研究テーマ『自立活動の視点に重点を置いた授業研究』に基づいて行った、グループによる授業検討はどうでしたか？



2、研究会を通して、ご自身の授業への視点を深める上で良い効果はありましたか？



3、今年度は学部単位でグルーピングを行いました。学部単位のグルーピングはどうでしたか？



【良かった点】
・他者の実践の共有: 他の先生の子どもの関わり方を知ることができ、参考になった。
・実態把握の深化: 子どもの実態について丁寧に話し合えたことで、新しい気づきがあった。
・学部の特色: 学部ごとの特色が分かり、他学部の取り組みを聞くのも興味深かった。

【課題・改善へのアイデア】
・負担の軽減: 授業見学の負担が大きい(特に小学部)。日々の教材研究やアイデア出しに時間を使いたい。
・環境面: 体育館での発表時、音声聞き取りづらかったり機材トラブルがあったりした。
・目的の明確化: 研究の目標やゴールを最初にもっと分かりやすく提示してほしい。

【次年度への提言】
・「即効性」のある研究: クラス運営に直結する事例検討(生徒・保護者対応)の導入。
・交流の工夫: 学部単位をベースにしつつ、他学部との交流(縦割り)の機会を設ける。
・効率化: 発表資料の作成時間を短縮し、本来の「教材研究」に充てる時間の確保。

図3 アンケート結果

【全校研究テーマ】

授業力向上 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～（2年め）
「自立活動」の視点に重点を置いた授業研究

1. 概要

小学部では、全校研究テーマ「授業力向上 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実（2年め）～」に基づき、児童の日常生活に直結する「自立活動」の視点を軸に研究を進めた。今年度は、学年の枠を越え、児童の具体的な課題や指導内容に合わせたグループ編成を行った。具体的には、「食事」「更衣」「排泄」「情緒の安定」の4つのカテゴリーに分かれ、専門的な視点から指導案の検討や教材研究、授業実践の共有に取り組んだ。



- ・グループ編成と課題設定：児童の実態に合わせて、4つの指導領域（食事・更衣・排泄・そのほか）から各自の研究テーマを選択。
- ・指導案・ワークシートの検討：対象児童の困難さの背景を分析し、自立活動の目標を設定。
- ・授業実践・交流：実際の授業見学や、日々の関わりの様子を共有。
- ・発表準備と共有：グループでの協議内容をまとめ、発信。

図1 小学部の研究準備の流れ

2. 意見交流会の様子

各グループでは、同じ課題を持つ児童を担当する教員同士が集まり、会議を重ねた。「食事」や「排泄」のグループでは、具体的な介助の手立てや環境設定について議論し、「情緒の安定」のグループでは、児童の行動の背景にある思いについて意見を出し合った。また、研究発表に向けては、自分たちの実践をどのように他者へ伝えるかを検討する時間を設け、学部を越えた情報共有の準備を進めた。

3. 意見交流会やアンケートから

【成果・肯定的な意見】他学部・他学年の実践を知る機会：普段なかなか見ることができない他学部の取り組みを聞くことができ、全学部で共通する目標があることを再確認できた。関わり方の参考：同じ学部の教員が、子どもたちに対してどのような意図を持って関わっているかを知ることができ、非常に参考になった。

【課題・改善点】研究内容の具体化：序盤、研究部が求める目標や内容を捉えきれず、手探りで進める場面があった。研究の方向性をより早期に明確にする必要がある。「発表」と「研究」のバランス：発表方法の検討に多くの時間を割いてしまった。もっと教材研究や、具体的なアイデア出しに時間を使いたかった。見学の負担：小学部の特性上、授業見学に行くことへの物理的・時間的な負担が大きく実施の難しさを感じた。

4. 来年度に向けて

今年度の研究を通し、学年を越えた情報共有の重要性が再確認された。来年度に向けては、以下の点に重点を置いて改善を検討する。

研究プロセスの整理：年度の早い段階で研究のゴールと手法を共有し、教員が迷わず研究できる体制を整える。
負担感の軽減と手法の工夫：直接の見学が困難な場合でも、動画活用や写真を用いた教材紹介など、無理なく実践を共有できる方法を検討し、「発表のための準備」よりも「児童のための研究」に主眼を置いた活動をめざす。

【全校研究テーマ】

授業力向上 ～個別最適な学びと協動的な学びの一体的な充実～（2年め） 「自立活動」の視点に重点を置いた授業研究

1. 概要

中学部では今年度から新時間割を運用し、それに伴って「自立活動」の時間における指導として設けている。毎日20分間、クラスでの取り組みや、「からだ」「さぎょう」「コミュニケーション」等の課題別に分かれたグループで学年ごとにねらいに沿った取り組みを行っている。（図1 中学部「自立活動」の時間における指導） また、前期と後期に1回ずつ中学部全体で自立活動に行っている取り組みの報告や、生徒に見られた変化等の情報共有、今後に向けての検討を進めた。新設された「自立活動」の時間における指導の検討とともに、中学部研究会において自立活動の観点から授業での支援の仕方について討議した。

中学部研究会では、昨年度は学年集団を基盤とする小グループで協議したが、今年度は授業担当教科を中心として学年の枠を越えたグルーピングを行った。意見交流では、授業の目標を達成するため、生徒の実態や日常生活における困難から授業内での支援方法を考えた。授業見学では実際に見学したり、活動場面の撮影映像を見たりすることで、グループのメンバー同士が支援方法・内容を負担なく共有できるようにした。（図2 中学部研究の流れ） 自立活動の視点に立って改めて生徒の実態を丁寧に見直し、授業内でより個別最適な支援方法について話し合った。

自立活動（6区分）

健康の保持⇨ 心理的な安定⇨ 人間関係の形成⇨ 環境の把握⇨ 身体の動き⇨ コミュニケーション⇨

「からだ」「さぎょう」「コミュニケーション」等
生徒の課題別にグループ指導



図1 中学部「自立活動」の時間における指導

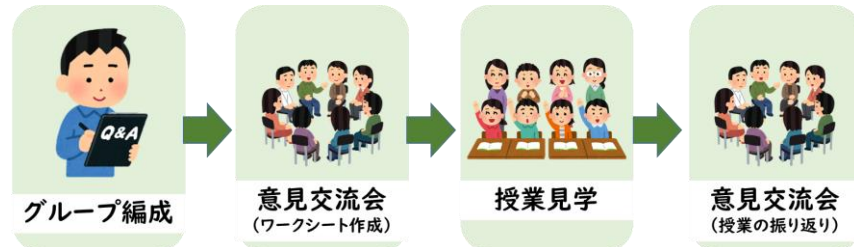


図2 中学部の研究の流れ

2. 学部研究会（意見交流会）の様子

第1回の意見交流会では、昨年度から継続した授業研究ということもあり、どのグループでも授業見学し合うペアの決定までスムーズに進められた。昨年度と違う点として、学年中心ではなく、授業の主担教科中心のグループであるため、前期授業の検討では指導法や教材についても具体的な話が出やすかった。一方、グループのメンバーが学年をまたがるため、授業見学として実際に見に行くよりも撮影された映像を見る形で支援内容を共有するペアが多かった。

第2回の意見交流会では、前期授業の主担者、見学者、意見を聞いた人による意見交流を行った。生徒の実態に合わせた支援方法を様々な視点から振り返ることができ、小グループの意見を言いやすい雰囲気の中で交流を行えた。また、後期授業に向けて自立活動の視点から検討を行った。

第3回の意見交流会では、後期授業についての意見交流と発表に向けたまとめを行った。グループの支援内容について良かった点や課題を話し合い、教科ごとによる小グループでの検討に肯定的な意見が目立った。

また、今年度から始まった「自立活動」の時間における指導について、1学期末と2学期末に中学部内で共有を行った。各学年で「からだ」「さぎょう」「コミュニケーション」等の課題別のグループ指導について略案を挙げ、指導法や教材について紹介し合った。また、今年度の学年内で行った指導の進め方を振り返り、来年度に向けてまとめを行った。

3. 意見交流会、アンケートから

【意見交流会】

- ・教科中心のグループなので、授業について相談しやすかった。
- ・時間割上、他学年の授業を見学に行けず、映像を見合った。
- ・授業において同じ悩みを共有できたので良い時間になった。
- ・授業で実際にどうやればいいのかアドバイスをもらえて良い機会になった。
- ・別の視点から考えることができた。他学年の生徒の学習課題への支援等が聞けて参考になった。

【自立活動共有会】

- ・課題別のグループ指導の頻度は、週1、2回が適切とする学年が多かった。
- ・グループの是非や教材活用、時間帯など、自立活動の実施について様々な意見が挙がった。

4. 来年度に向けて

今年度中学部では、学年の枠を越えて授業の主担教科中心のグループで意見交流を行った。経験年数の長い教員から若手教員、所有免許が異なる教員など経験の様々なメンバーで少人数により討議を行うことで、昨年の中でのグルーピングよりも具体的な指導について相談できたという肯定的な声が挙がった。来年度は、他学部も合わせたグルーピングにより多様な実態の児童生徒への学習支援について検討したい。

また一方で、今年度は新設された「自立活動」の時間における指導について共有する自立活動共有会があったため、他学部よりも学部研究会の日程が少なかった。そのため、発表に向けた準備の時間があまり取れず、各グループで時間を調整してまとめを作成した。中学部で研究の進め方を共有し、各グループの取り組みを振り返りまとめる時間がより丁寧に取れると良かった。来年度は教科会を活用することで学部研究会を全校で同じ日数で行うことがのぞましい。

【全校研究テーマ】

授業力向上 ～個別最適な学びと協動的な学びの一体的な充実～（2年め）
「自立活動」の視点に重点を置いた授業研究

1. 概要

高等部は「自立活動」という大きなテーマに重点を置き、本校の教科目標を達成するための支援内容や手立てについて考えることを目的としている。主担当授業の中から今年度の研究を行いたい教科（授業）のアンケート（図1）やワークシート（図2）の制作では、ロイロノートを活用し、全体で内容を確認できるよう共有した。また、今年度は学部内で教科ごとの小集団グループを編成することにより、昨年度の研究で培った様々な支援方法や教材も含めた意見交換を行い、学年を超えた交流を期待している。

図1 ロイロノートを用いた授業アンケート

図2 ロイロノートを用いたワークシート

2. 意見交流会の様子

【1回目】

ロイロノート内のワークシート（図2）を活用し、各授業での「教科の目標」と、授業における「生徒の困難（自立活動の目標）」について話し合い、達成したい目標や支援方法について検討した。時間割の関係上、他学年の授業を参観する時間を調整するのが難しいグループもあったが、その場合は授業を撮影し、その動画を後日鑑賞したり、同じ教科だが他の班のメンバーで授業を見学したりして調整した。また、個人によっては「実際に授業を見学したい。」という意見もあった。

【2回目、3回目】

授業見学を行った先生方の意見や感想を記録した授業見学シート（図3）を基に、より有効な支援方法や改善点について検討した。また、授業者のワークシート（図2）と授業見学シート（図3）、他の先生方の意見を統括シート（図4）にまとめ、2月の発表会で使用するスライドの制作を行った。

3. 意見交流会やアンケートから

【意見交流会】

- ・他学年の授業の様子や生徒の状況を知ることができてよかった。
- ・空き時間の関係で学年を超えての授業見学が難しい。
また、体育は動画撮影が難しく、動画を撮影する先生を追加で準備しなければならない。
- ・他学年だと実際に授業見学を行うのが難しい。授業の動画を鑑賞する方法もあるが、公開授業に戻しても良いのでは？
- ・同じグループに同学年を偶数入れてほしい。

【アンケート】

- ・ロイロノートでワークシートを入力することにより、ロイロノートの機能に取り組むことができてよかった。
- ・高1の職家はローテーションで授業を行っているため、授業見学の日にちを事前に決めるのが難しかった。

図3 授業参観シート

図4 統括シート

4. 来年度に向けて

今年度は各自の「主担当教科」の中から研究を行いたい授業のアンケートを取ることで、専門教科以外の先生が主担を受け持った場合でも気軽に他学年の専門教科の先生に専門的な相談ができるような機会を設定することができた。授業見学は撮影した動画を鑑賞することを方法の一つとしていたが、授業によっては撮影が難しい教科もあった。「同じグループに同学年を偶数入れてほしい。」という意見もあったことから、来年度は同学年を偶数にしたり、授業を撮影したりする際の配慮が必要になってくるのではないかと考える。